

## アンケート結果にみるHDD工法の関心の高さ

昨年9月7～8日の2日間にわたり開催したHDD工法施工見学会・展示会では来場者にアンケートをお願いした。

アンケートの設問と選択すべき回答は以下のとおりである。

### 1. 今後HDD工法を採用したい（するべき）と考えますか？

- ①是非採用したい（するべき） ②検討したい（して欲しい）  
③今のところ考えていない

#### (1) ①、②と回答された方へその理由は何ですか？

（複数回答可）

- a. コストメリット（道路復旧費、残土処理費、立坑費、工期短縮、他）  
b. 工事環境問題（交通規制、騒音・振動、他）  
c. 施工環境（道路縦横断、水路・河川横断、軌道横断、他）

#### (2) ③と回答された方へその理由は何ですか？

- a. コストデメリット  
b. 土質など  
c. 埋設物など

### 2. 見学会および展示会で興味を持ったものは？

### 3. 見学会および展示会感想をお願いします。

全来場者は220名余りだったが、アンケートは75名から回収、うち、回答があったのが68名。結果は表-1、表-2のとおりである。

発注者、施工会社、コンサルタントなど回答者のおよそ9割が「是非採用したい」「検討したい」と回答しており、関心の高さを示している。また、その理由については、コストメリットが1位だが、施工環境も差がなく続く。次いで工事環境問題とくる。コストメリットではそのほとんどが道路復旧費の低減と工期短縮をあげている。施工環境、ここでは工事現場をいうが、開削困難な国・県道など1級幹線道の縦横断にそのニーズは集まっているようだ。また、工事環境問題では交通規制の問題が圧倒的に多い。

およそ、1割強が「今のところ考えていない」と回答しているが、その理由がほとんどあげられていないことから、この工法に否定的というのではなく、機会があればと読みとれる。

「興味をもったもの」については、経年化した既設管の入替工法に集まっていたようだ。旧式の鋳鉄管を



中山 正志

NAKAYAMA Masashi  
HDD工法委員会

砕いたり、老朽化の進んだ鋼管を切り裂きながら、新設するポリエチレン管などを引き込んでくるという機械が注目されている。経年管の入替えは多くの事業者の頭を悩ませているようだ。いずれにしても主役はポリエチレン管である。「ポリエチレン管に興味あり」と回答した人も多い。ある水道事業者は、「水道用ではポリエチレン管が有効、検討の対象として再認識した。」と記している。

実のところこれだけ関心が高かったことは驚きであった。最後の感想にはほとんどの人が「有意義であった」「参考になった」「勉強になった」「（採用を）検討したいと言う気持ちから、是非、採用したいと言う気持ちに変わった」「簡易でコストメリットがありこれから絶対に延びる工法である」などと結んでいる。

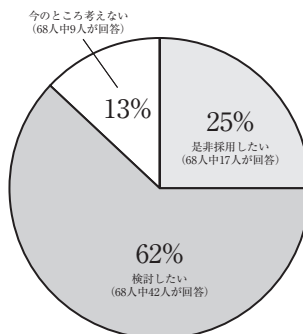


表-1 HDD工法の採用について

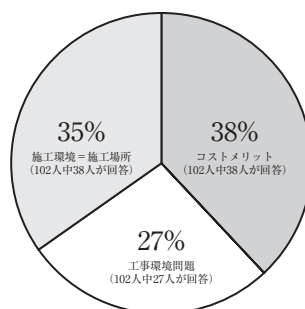


表-2 HDD工法の採用の理由



ポリエチレン管の説明にも熱が入る